

いずみ学級（自閉症・情緒学級） 自立活動学習指導案

1 活動名 めざせ！伝える名人、聞く名人

2 活動目標

- ・友達と一緒にルールを守って楽しく活動することができる。 【区分3：人間関係の形成】
- ・場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができる。 【区分6：コミュニケーション】

3 活動について

(1) 児童の実態と課題

本学級の児童は、少しずつ小学校生活に慣れてきた1年生4名と、まだまだマイペースに過ごす2年生2名の6名で活動をしている。遊びの場面では、自分から友達に関わろうとする姿が見られるが、相手の様子や気持ちに関係なく一方的に話しかけたり、自分の思いだけで行動したりすることが多く、伝えたい内容が相手に伝わらず苛立ったり、トラブルになったりすることがある。また、みんなでゲームやクイズなどをした時には、順番が守れなかったり、負けて怒れてしまったりすることもある。これらは、自分の感情をうまく言葉や態度で表現できななかったり、相手の言葉や表情から気持ちを考えることが難しかったりする障害の特性でもあるが、集団の中で友達と一緒に活動をする経験不足もあると考える。

(2) 目標に迫る手立て

本活動では、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりするコミュニケーションに必要な基礎的な力を身に付けていきたい。そこで、話し方や聞き方のマナーやルールを確かめながら簡単なゲームやクイズなどをする中で、自分の思いを伝える楽しさを味わえるようにする。また、活動の様子を動画や写真で撮影して見せることで、自分や友達の様子を確かめ合い、互いのよさやがんばりを認め合えるようにしていく。

本活動を通して、児童が、相手に思いを伝えることの大切さに気付き、困った時に助けを求めたり、嫌なことは嫌だという意思表示をしたりすることができるようにし、将来、社会に出て働くために必要な力を身に付けることにつなげていきたい。

4 指導計画（6時間完了）

学 習 活 動	
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">インタビューごっこをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、〇〇〇〇です。あなたの名前を教えてください。 ・ぼくは、〇〇〇〇です。好きな食べ物を教えてください。
2 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">3ヒントカードゲームをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントを全部聞いてから、カードを取るのだね。 ・ヒントを全部聞かないと、間違えてしまうね。
4 5 (本時) 6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「わたしはなにでしょうクイズ」をつくってみよう！やってみよう！</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントは、「短く」考えよう。 ・ヒントを言うときは、「短く」「1つ1つ」「はっきりと」だね。 ・みんなでやると、楽しいね。 ・間違えても、怒らないよ。

「きくきくトレーニング」をしよう。

- ・何の音でしょう
- ・おちたおちた
- ・目、目、目
- ・船長さんゲーム

など

5 本時の構想 (5/6)

(1) 本時の目標


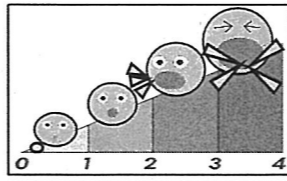
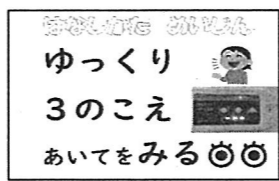

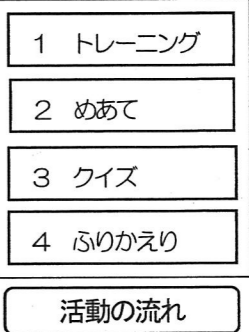
- ・友達や先生の話最後まで聞いたり、気持ちを落ち着かせて活動したりすることができる。【区分3：人間関係の形成・項目①他者との関わりの基礎に関する事、項目②他者の意図や感情の理解に関する事、項目④集団への参加の基礎】
- ・その場にふさわしい言葉づかいや声の大きさを話することができる。【区分6：コミュニケーション・項目②言語の受容と表出に関する事、項目⑤状況に応じたコミュニケーションに関する事】

児童	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E	児童F
実態	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったことに対しては、活動に参加することができる。 ・積極的に人と関わろうとするが、相手の反応に関係なく一方的に話したり、自分のペースでやりたいことをやったりする。 ・負けたり正解しなかったりすると、暴言を吐いたり、暴れたりして怒ることがある。 ・興味がないと離席することがある。 ・やりたいことがあるとやめることができず、次の活動に移れないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に興味をもち、何事にも素直に取り組もうとする。 ・積極的に人と関わろうとするが、相手の反応に関係なく一方的に話することがある。 ・自分が話したいことについては、積極的に話すことができるが、友達から質問をされると自信がなくなり、答えられないことがある。 ・積極的に話をするが、不明瞭な言葉がある。吃音も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に興味をもち、何事にも素直に取り組もうとする。 ・興味や集中の持続が難しく、指示を聞いていないことがある。 ・人前で話す時は、声が小さくなり、不安そうに話することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に興味をもち、何事にも素直に取り組もうとする。 ・全体への指示を聞くことが難しいため、個別で指示をしたり、手順を示したりする必要がある。 ・友達に話しかけられても反応しないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やるべきことが理解できると、落ち着いて活動に取り組むことができる。 ・分からなかったり、負けたりした時には、「もういやだ」と言って取り組むのをやめてしまうことがある。 ・自分が話したいことについては、積極的に話そうとするが、友達から話しかけられると聞いていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったことに対しては、集中して取り組むことができる。 ・積極的に人と関わろうとするが、相手の反応に関係なく一方的に話したり、自分のペースでやりたいことをやったりする。 ・自分の方へ興味を引こうとして、大きい声を出したり、汚い言葉を使ったりすることがある。
目標	区分3：人間関係の形成 ④集団への参加の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・間違えたり、指名されなかったりした時に、怒らずに活動したり、自分の気持ちを穏やかに伝えたりすることができる。 	区分3：人間関係の形成 ②他者の意図や感情の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・指示や合図を待ち、相手のペースに合わせて、一緒に活動することができる。 	区分3：人間関係の形成 ①他者とのかかわりの基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・指示や合図を聞いて、自分のやることを理解して活動することができる。 	区分3：人間関係の形成 ①他者とのかかわりの基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・全体での教師の指示を聞いて活動することができる。 	区分3：人間関係の形成 ④集団への参加の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・間違えたり、指名されなかったりした時に、怒らずに活動することができる。 	区分3：人間関係の形成 ②他者の意図や感情の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・指示や合図を待ち、相手のペースに合わせて、一緒に活動することができる。
	区分6：コミュニケーション ⑤状況に応じたコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・その場にふさわしい声の大きさを話することができる。 	区分6：コミュニケーション ②言語の受容と表出 <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるように、ゆっくり話することができる。 	区分6：コミュニケーション ②言語の受容と表出 <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て、伝わる声の大きさを話することができる。 	区分6：コミュニケーション ②言語の受容と表出 <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て話すことができる。 	区分6：コミュニケーション ②言語の受容と表出 <ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるように、ゆっくり話することができる。 	区分6：コミュニケーション ⑤状況に応じたコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・その場にふさわしい声の大きさや言葉づかいで話することができる。

(2) 本時の学びを深める手立て

児童は、自立活動だけでなく、普段の生活の中でも、相手の話を聞くことや、相手に伝わる話し方をすることを練習している。しかし、落ち着いてできる時と、苛立って指示が聞けない時とがある。そのため、本時では、簡単なゲームやクイズを取り入れることで、まずは、友達と一緒に活動を楽しめるようにしたい。そして、一人ずつクイズを考えて出題し合うことで、相手に伝わるように話したり、相手の話を最後まで聞いたりすることの大切さに気づき、コミュニケーションに必要な基礎的な力を身に付けさせたい。

(3) 展開 (◎：学びを深める手立て ○：個への支援)

	学習活動	教師の支援
つかむ	1 「きくきくトレーニング」をする。(おちたおちた) ・今日は、何のトレーニングかな。 ・よく聞かないと、間違えちゃうね。 2 活動の流れを確認する。 「わたしは なにでしょうクイズ」をしよう ・この前は、動物のクイズだったよ。今日は、何のクイズかな。 3 本時のめあてを確認する。 相手に伝わるように話そう (話し方のポイント) ・ボイスルーラーで3の声だと聞こえる声だね。 最後まで聞こう (聞き方のポイント) ・最後までヒントを聞くと答えが分かるね。	・ゲームから始めることで、気持ちの切りかえの難しい児童も活動に参加できるようにする。(T1) ○児童Aや児童Fに声をかけて、一緒に「きくきくトレーニング」ができるようにする。(T2) ・「きくきくトレーニング」をゲーム感覚で行うことで、相手の話を聞くことへ意識を向ける。(T1) ・本時の活動の流れを黒板に貼っておくことで、活動の見通しがもてるようにする。(T1) ・本時のめあての話し方や聞き方のポイントを確認する。(T1)
	 <p>ボイスルーラー</p>	 <p>声のものさし</p>  <p>話し方のポイント</p>  <p>聞き方のポイント</p>
		 <p>活動の流れ</p>

	<p>4 自分のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをイラスト付きカードにして貼ることで、自分のめあてを理解できるようにする。(T1) ・隣で声をかけたり、「ポイント何だったかな？」など尋ねたりすることで、活動に集中できるようにする。(T2) 			
	<p>5 「わたしは なにでしようクイズ」の内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイタブレットを操作する際の約束として「(画面を)送る→(前を)見る→話す」の合言葉を確認する。(T1) ・机を壁に向けて配置することで、集中して確認ができるようにする。 ・前もってヒントを作っておくことで、クイズを出し合うことを楽しめるようにする。(T1、T2) ・一人ずつ一緒に確認をすることで、自信をもって発表ができるようにする。(T1、T2) 			
<p>聴き合う ・高め合う</p>	<p>6 「わたしは なにでしようクイズ」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くだものです。まるいです。あかいです。わたしはなんでしょう。 ・すいかですか。 ・ちがいます。 ・りんごですか。 ・せいはいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイタブレットからクイズのヒントを出すことで、活動への意欲を高める。(T1) ・自分のめあてを確かめてからクイズを始めることで、話す方も聞く方も、めあてやルールを意識できるようにする。(T1、T2) ・はじめは、大型モニターにヒントを映さずにクイズを行うことで、児童が聞くことに集中できるようにする。(T1) ・発表者がどこに立てばよいか明確に分かるように、立つ場所に足型を用意する。(T1) ・最後まで話を聞けるように、「わたしは なにでしよう」の合言葉まで聞いてから手を挙げることを確かめる。(T1) ・挙手した児童全員を指名することで、意欲を持続できるようにする。(T1) ・途中で「きくきくトレーニング」を挟むことで、集中力が継続できるようにする。(T1) ・友達のよさに気付いたり、本人が達成感を味わったりすることができるよう、活動の様子を撮影しておく。(T1、T2) ・話し方や聞き方のよかったところを、クイズを出し合う度に大いに褒めながら伝えることで、振り返りの場面で、がんばりを発表できるようにする。(T1、T2) 			
<p>まとめる・振り返る</p>	<p>7 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの視点を、「がんばったこと」や「友達のよかったところ」とする。(T1) ・自分のがんばったことやできたことを実感できるよう、めあてのカードに花丸カードを貼る。(T1) ・自分や友達のがんばりを発表できるように、活動中の写真や動画を見せて、自分や友達の様子を一緒に確かめる。(T2) ・友達からがんばりを認められたことを実感できるよう、めあてのカードに「いいね」カードを貼る。(T1) 			
<p>児童A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通の声(3の声)で話します。 ◎声の大きさのカードを見せることで、めあてを意識できるようにする。(T1) ○ボイスルーラーを使って声の大きさを確認することで、3の声がどれくらいか理解できるようにする。(T1) 	<p>児童B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり話します。 ◎話し方のポイントカードを見せることで、めあてを意識できるようにする。(T1) ○教師と一緒にめあてを言うことで、安心して話せるようにする。(T2) 	<p>児童C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に聞こえる声(3の声)で話します。 ◎声の大きさのカードを見せることで、めあてを意識できるようにする。(T1) ○ボイスルーラーを使って声の大きさを確認することで、3の声がどれくらいか理解できるようにする。(T1) 	<p>児童D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を見て話します。 ◎話し方のポイントカードを見せることで、めあてを意識できるようにする。(T1) 	<p>児童E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり話します。 ◎話し方のポイントカードを見せることで、めあてを意識できるようにする。(T1) ○教師と一緒にめあてを言うことで、安心して話せるようにする。(T2) 	<p>児童F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通の声(3の声)で話します。 ◎声の大きさのカードを見せることで、めあてを意識できるようにする。(T1) ○ボイスルーラーを使って声の大きさを確認することで、3の声がどれくらいか理解できるようにする。(T1) ○優しい言葉で話すよさに気付けるよう、教師が手本を見せる。(T2)
<p>児童A</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎声の大きさを確かめながら発表できるように、ボイスルーラーを使用する。(T1) ◎声の大きさのカードの数字を教師が指さすことで、自分の声の大きさを視覚的に分かるようにする。(T1) ○「わたしはなにでしよう」の言葉まで聞くことができた時は、Aの聞く態度を褒めたり、がんばりを認めたりする。(T2) ◎間違えたり、指名されなかったりして落ち着かない時は、「小さい声で先生に教えて」と声をかけて言わせることで、落ち着けるようにする。(T2) 	<p>児童B</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ゆっくり話せるよう、文節ごとに印を入れたせりふカードを用意する。(T1) ◎教師と一緒に練習してから発表することで、自信をもって話せるようにする。(T2) ○最後までクイズを聞くことができるよう、出題される前に聞き方のポイントカードを個別に提示する。(T2) 	<p>児童C</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎声の大きさのカードの数字を教師が指さすことで、自分の声の大きさを視覚的に分かるようにする。(T1) ○教師と一緒に練習してから発表することで、自信をもって話せるようにする。(T2) ○どこを見て話したらよいかわかるよう、聞き手側から目線カードを提示する。(T2) ◎個別に声をかけることで、活動に集中できるようにする。(T2) 	<p>児童D</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「送る→見る→話す」の合言葉を確認することで、友達を意識して話すことができるようにする。(T1) ◎教師と一緒に練習してから発表することで、自信をもって話せるようにする。(T2) ◎どこを見て話したらよいかわかるよう、聞き手側から目線カードを提示する。(T2) ○全体の指示を聞いて活動できるように、名前を呼んで注目したのを確認してから話す。(T1) 	<p>児童E</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎手拍子を打って、リズムに合わせて一緒に言うことで、ゆっくり話せるようにする。(T1) ◎手拍子に合わせて、ゆっくり話した時には、大いに褒める。(T1) ○落ち着いて話を聞くことができるよう、聞き方のポイントを絵カードで個別に提示する。(T2) ○言葉の意味が理解できるように、個別でスリーヒントの絵カードを見せる。(T2) ◎「もうやだ」と怒った時は、「まあいっかだよ」と声をかけたり、「だいじょうぶ」の絵カードを見せたりする。(T2) 	<p>児童F</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎声の大きさのカードの数字を教師が指さすことで、自分の声の大きさを視覚的に分かるようにする。(T1) ○「送る→見る→話す」の合言葉を確認することで、友達を意識して話すことができるようにする。(T1) ○「わたしはなにでしよう」の言葉まで聞くことができた時は、Fの聞く態度を褒めたり、がんばりを認めたりする。(T2)
<p>児童A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3の声で言えました。 ・Bが上手でした。 ○自分から振り返りが言えるよう、Aのめあてを見せて、「どうだったかな」と問いかける。(T1) 	<p>児童B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり言えました。 ・Aが3の声でした。 ○自分から振り返りが言えるよう、Bのめあてを見せて、「どうだったかな」と問いかける。(T1) 	<p>児童C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3の声で言えました。 ・Dが、がんばっていました。 ○自分から振り返りが言えるよう、Cのめあてを見せて、「どうだったかな」と問いかける。(T1) 	<p>児童D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(クイズが)できました。 ・Fが3の声でよかったです。 ○自分から振り返りが言えるよう、Dのめあてを見せて、「できたかな」と問いかける。(T1) 	<p>児童E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(クイズが)できました。 ・Cが、がんばっていました。 ○自分から振り返りが言えるよう、Eのめあてを見せて、「できたかな」と問いかける。(T1) 	<p>児童F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3の声で言えました。 ・Eが、ゆっくり話していました。 ○自分から振り返りが言えるよう、Fのめあてを見せて、「どうだったかな」と問いかける。(T1)

○落ち着いて活動に参加できた時は、話を聞く様子についても褒めることで、達成感を味わえるようにする。(T2)				○言葉で表現することが難しい時は、○×カードを見せて選ぶようにする。(T2)	○落ち着いて活動に参加できた時は、話を聞く様子についても褒めることで、達成感を味わえるようにする。(T2)
---	--	--	--	--	---

(4) 本時の評価

評 価	区分3：人間関係の形成 ④集団への参加の基礎	区分3：人間関係の形成 ②他者の意図や感情の理解	区分3：人間関係の形成 ①他者とのかかわりの基礎	区分3：人間関係の形成 ①他者とのかかわりの基礎	区分3：人間関係の形成 ④集団への参加の基礎	区分3：人間関係の形成 ②他者の意図や感情の理解
	・間違えたり、指名されなかったりした時に、怒らずに活動したり、自分の気持ちを穏やかに伝えたりすることができたか、活動の様子から判断する。	・指示や合図を待ち、相手のペースに合わせて、一緒に活動することができたか、活動の様子から判断する。	・指示や合図を聞いて、自分のやることを理解して活動することができたか、活動の様子から判断する。	・全体での教師の指示を聞いて活動することができたか、活動の様子から判断する。	・間違えたり、指名されなかったりした時に、怒らずに活動することができたか、活動の様子から判断する。	・指示や合図を待ち、相手のペースに合わせて、一緒に活動することができたか、活動の様子から判断する。
評 価	区分6：コミュニケーション ⑤状況に応じたコミュニケーション	区分6：コミュニケーション ②言語の受容と表出	区分6：コミュニケーション ②言語の受容と表出	区分6：コミュニケーション ②言語の受容と表出	区分6：コミュニケーション ②言語の受容と表出	区分6：コミュニケーション ⑥状況に応じたコミュニケーション
	・その場にふさわしい声の大きさを話すことができたか、活動の様子から判断する。	・相手に伝わるように、ゆっくり話すことができたか、活動の様子から判断する。	・相手を見て、伝わる声の大きさを話すことができたか、活動の様子から判断する。	・相手を見て話すことができたか、活動の様子から判断する。	・相手に伝わるように、ゆっくり話すことができたか、活動の様子から判断する。	・その場にふさわしい声の大きさや言葉づかいで話すことができたか、活動の様子から判断する。

(5) 板書計画

